



○伊勢・歌いよみ○
紀の路にも
下りず夜を行く
鷹ひとつ
燕村

皇 學 館

学 園 報

第34号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL0596-22-6496・8600

大 学
大学院・専攻科・文学部・教育学部・
現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL0596-22-0201代 FAX0596-27-1704

高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577 TEL0596-22-0205代
【中学】〒516-8588 TEL0596-23-1398代

●今号の注目記事

- 1 面
英国・ケント大学と
協定締結
- 2 面
ドイツ大使が来学
みえの現場・すごいやんかトーク
- 3 面
学びの現場からⅡ「伝統の心と技」
- 4・5 面
ゼミ研究旅行報告
学生編集ページ

- 6 面
同窓会総会・宿泊研修 など
高校・中学
- 7 面
神社関係者懇談会を開催
- 8 面
人形劇「スサノオの冒険」

●連載

- 2 面
皇學館人物列伝⑮ 安藤正次
- 7 面
先輩、お元気ですか
村井美紀氏
(社会福祉学科第1期・平成14年卒)



〔8月9日〕協定調印式の様子。バルドック ケント大学副学長
代理 前列右と櫻井国際交流委員長左。

ケント大学はイングラ
ンド南東部ケント州カン
タベリーに位置し、パリ
やブリュッセルなどにも
サテライト・キャンパス
を持つ国際色豊かな国立



上／【8月8日】ケント大学スタッフから説
明を受ける学生(キャンパスツアー)
下／【8月26日】研修修了式後の記念写真

の三学部を有する総合大
学でもあり、英国政府に
よって実施されたRAE
(教育業績評価)による
と、全英一五九校中総合
二十四位、特に演劇・英
文学・歴史学・法学・社
会学部門でトップテン入
りを果たしている。

本学国際交流委員会
は、英国・ノーザンプト
ン大学との協定期間満了
(平成十九年度より四年間)
に伴い新たな協定先を模
索していたところ、ケン
ト大学が最適であるとの

英国・カンタベリー ケント大学と協定締結

本学は八月九日、国際的な教育および学術研究交流の促進を目的に、英国のケント大学と大学
間協定を締結した。同時期の八月七日〜同二十七日には、第一回語学研修が実施され、四学部の
学生二十三名が同大学において、本場の英語を集中的に学んだ。



質の学長役を担う)やこ
の交流の産みの親でもあ
るナンシー・ガーフィー
清水潔学長が予め署名を

した協定書を携えて、櫻
井治男国際交流委員長
(社会福祉学部長)と池田
教授、玉田主任が臨み、
友好的な雰囲気の中、調
印が交わされた。協定の
内容は、①ケント大学で
の短期語学研修の実施、
②教職員の交流、③アジ
アの宗教・文化などをテ
ーマにした共同研究であ
る。その他、長期の留学
生交換をはじめ、英国国
教会の総本山を持つカン

タベリーと伊勢を視野に
した国際シンポジウムの
共同開催といった夢のあ
る企画にまで話題は及ん
だ。

八月二十六日には、三
週間の語学研修を終えた
学生二十三名が修了式に
臨み、デビッド・ナイチ
ンゲル副学長から直々
に修了証を授与された。
なお、この研修報告や参
加学生の体験記について
は次号に掲載する。

国際交流の今と これから

国際交流委員長
(社会福祉学部長)
櫻 井 治 男



本年四月から、清水潔新学長
の方針を受け、四学部長が総務・
人事、教務、入試・広報、国際
交流の領域を分担し、筆者は主
に国際交流委員会や関連諸事に
係わることとなった。それにあ
たり、二つの事柄を思い起こし
た。一つは、田中卓元学長が日
本私立大学連盟主催の第七回海
外大学経営セミナーの団長とし
て管理職にある事務職員五十余
名とともに、ソルボンヌ・ウブ
サラ・エジンバラ・プリンス
ン・カルフールニア大学を視察
されたこと。二つ目は、篠田康
雄元理事長が、神道を中心とし
る学術の国際交流推進、すなわ
ち人的交流、情報交換などを推
進すべく振興基金を整えられ、
現在も熱田神宮から支援を頂い
ていることである。

学園報『全学一体』のバック
ナンバーを繰ると、教職員が視
察や国際会議などで多様に渡
航、また学生のゼミ研究旅行先
として海外が選ばれ、貴重な体
験を積み、研究成果をあげられ
たことがわかる。しかし、本学
が組織的に国際交流分野へ歩み
始めたのは、ここ五〜六年ほど
のことかと思う。現在、交流先
として中国圏と英語圏とが設定

され、前者については、①中国
社会科学学院、②河南大学、③河
南師範大学との間で協定が結ば
れ、①とは研究者の相互留学、
社会福祉分野における共同研究
が進められている。河南省の両
大学からは、ダブルディグリー
を目指す編入生や教職員の受け
入れを行ってきている。ただし、
人の行き来では等しい形となっ
ておらず、②での語学研修は短
期のもので、今後いかなる交流
内容とするか環境整備を含め検
討課題である。

英語圏は、英国・ノーザン
トン大学へ学生の夏期語学研修
が開始されたが、ここ二年ほど
は中断となり代替プログラムが
設定されてきた。幸いなことに
昨年度からの交渉が実を結び、
英国・カンタベリーにあるケン
ト大学と語学研修、教職員の相
互交流、共同研究にかかわる面
での包括的な覚書を交わすこと
ができ、去る八月には二十三名
の学生諸君が研修に赴いた。

ケント大学への引率で数週間
学生諸君と過ごしたが、初めて
の他者、異なる歴史・文化の姿
を知り、自分の思い通りとなら
ない生活、慣習に接したことは
参加者にとりよき経験であった
だろう。ただ忘れてならないこ
とは、他者も私たちを通して、
皇學館大学、日本を見つめたこ
うなことである。

ドイツ日本文化研究所東京
の前所長ヨーゼフ・クライナー
氏は、「ヨーロッパ思想史におけ
る日本観」というエッセーで、
日本があらためて世界へ開き始
めた近代において、日本への眼
差しは「近代化に対する理解と
警戒」の両面があり、その日本
観は、留学生達の態度行動から
も形成されたとの指摘がある。

本学の国際交流が組織的に
行われる以上、推進の円滑化と
ともに交流する一人ひとりの力
が発揮されるよう願っている。

倉田山 春秋

グーテンベルク革命か
ら五百年、グーグル問
題の衝撃が、いよいよ
書籍文化のパラダイムチ
ェンジを予感させる。あ
らゆる書籍が、デジタル
コンテンツとして巨大企
業のグローバル戦略に飲
み込まれた時、そこには
一体どんな文化状況が出
現するのだろうか▼フラ
ンスでは巨額の資金を投
入して、国立図書館等に
よる自国文献のデジタル
化事業の推進が決定され
た。グーグルへの対抗策
である。今や日本でも、
大規模な国内資料のデジ
タル化を、国立国会図書
館の重要任務の一つに位
置付けるべき時が来たの
ではないか▼それ程遠く
ない将来、書籍は電子販
売システムによる弘布
が、一般化するといわれ
るようになって来た。そ
こに突然つきつけられた
グーグル問題、それは
まさに黒船の来航であつ
た▼近未来の公共図書館
では、電子化されたあら
ゆる資料を無料で閲覧
し、一定期間のコンテン
ツ貸出が受けられるよう
になっているのだろうか。
国民の「知る自由(権
利)」や知的アクセス権の
視点からも、巨大とはい
え、或いは巨大ゆえ、一民
間企業によるグローバル
な知の独占は、どこにも
気になるところである。

ドイツ大使が来学

第十一回現代日本塾を開催

今の日本に最も必要な人材を育成しようと、現代日本社会学部では各分野の第一線で活躍する方を講師に「現代日本塾」を開催している。第十一回はドイツ大使のフォルカー・シュタンツェル氏を招き、「日独交流一五〇周年の意義」をテーマに語っていただいた。



講義後、花束を受け取り満面の笑みを浮かべる大使(左)

七月二十八日、第十一回「現代日本塾」が開催された。壇上に立ったのは駐日ドイツ連邦共和国大使であるフォルカー・シュタンツェル氏。氏はフランクフルト大学で日本学を専攻した後、京都大学へ留学。それ以来台気道を嗜み、内外で指導するなど大変な親日家である。

講演では日本人とドイツ人に共通する性質として「好奇心が強い」ことを挙げ、「国家」に加え、政治と関わりのない市民同士の草の根交流や学術交流を進めてほしいと語った。また、この度の東北大地震についても言及。学生からの「日本はどのような困難を乗り越えるべきか」との問いに対しては「コミュニケーションを尊重し、ともに力をあわせてがんばっている姿が印象的」と語り、こうした農耕民族の伝統的な性格を礎に、日本国民はきつと立ち直ることができると力説した。



心身を鍛えることで未知の世界を拓ける、と話す大使(写真中央)

鈴木知事とみえの現場・すこやかトーク 大学編 in 皇学館大学

地域活動の夢語る



鈴木知事(正面奥の右)は学生一人ひとりの発言に率直な感想を述べたり共感を示したりして、打ち解けた雰囲気の中で活発な意見交換がなされた

今年四月、三十六歳で就任し全国最年少知事として話題となった鈴木英敬三重県知事が、県内でさまざまな地域活動に取り組む学生たちと車座で意見を交わす場を設けている。名付けて「みえの現場・すこやかトーク大学編」。八月十日にその第一回が本学で開催された。

トークに参加したのは、宇治山田プロジェクト、宇治山田商業高校ネットショップのアドバイザー、ボランティアサークル「たんぽぽの会」などで活躍している七グループ計十名の学生たち。トークでは、まずそれぞれが自分たちの活動内容や参加した動機について語り、知事からは「悩みや不安に思っていることは？」、「どういうときに幸せを感じるか？」、「十年後、三重県や日本、世界はどうなっているか？」など質問が上がった。また、福島事故

を受けて原発を危惧する声に対しては、「私が知事である限り、三重県に原発は作りません」と政策を打ち出す場面も。最後に感想を述べ合い、学生たちが「予想以上に楽しかった」「今日のことを他の学生にも伝えたい」となど語った後、知事からも「十年先の幸せを見据えた県政プランの策定に向け、今日の意見は大変参考になりました」とお礼の言葉があった。そして、学生たちに「自分のやりたいことが正解かどうかと悩むより、一歩でも二歩でも進んでほしい」「人を否定しないことが大切。自分と異なる価値観の人と触れ合うことが成長につながる」と熱いメッセージを送った。

虫と触れ合い感性磨く

神道博物館・夏休み親子教室

「スズムシの庭園を作ろう!!」

今回で十七回目を迎える「夏休み親子教室」は、神道博物館が神宮徴古館農業館との共催で幼稚園児や小学生とその保護者を対象に毎年行っている夏の恒例行事だ。

今年度の企画は「スズムシの庭園を作ろう!!」。七月二十七日と三十一日の計二回、神宮徴古館農業館の学芸員及び職員の方々が講師となり、神宮徴古館の講座室・展示室等を会場に開催された。当日は、講座室で阿田

三郎神宮文化部長、岡野友彦本学神道博物館長の挨拶により開講式が行われた後、慶光院所持の虫籠をはじめ虫にまつわる展示資料を見学。また、伊勢俳諧の祖である荒木田守武の像の前に虫を題材とした俳句作りが行われた。そして、館外で明治期のルネッサンス様式建築物である徴古館前庭を特別見学し記念撮影。その間、江戸時代の虫籠等の貴重な館蔵品を前に当時の人々も虫の音を鑑



熱心に講師の説明を聞く子どもたち

賞しており、秋の風流を尊ぶ慣習が古くより存在していたことなどが講師の口から語られた。参加者たちは、俳句の鑑賞方法や作り方など普段なじみの無い文学知識にも触れることができたようだ。

続いて、目玉企画である鈴虫の庭園作りが講座室で実施された。子どもたちは各自持参した飼育箱に土や備長炭、龍のひげ等の草等を入れてミ

皇学館 人物列伝 15

国民にとって使いやすい国語を考究

安藤正次

あんどう まさつぐ

安藤正次は明治十一年九月十三日埼玉県に生まれた。幼くして父母に



あんどう まさつぐ ◆上田萬年に私淑し、神宮皇学館を経て東京帝国大学に学ぶ。選科生修了後、二十歳で神宮皇学館教授となる。昭和三年から台北帝国大学教授となり、後、総長。戦後は国語審議会会長を務め、懸案であった漢字制限と仮名遣問題を決着させた。明治十一年(一八七八)昭和二十七年(一九五二)。

死別し苦勞の多い少年期を過ごした。明治二十五年神宮皇学館に入学し、井上頼文らに薫陶を受ける。

ここで古典の訓詁を重視する国学的教育を受けるとともに文化史を背景とする幅広い視野を身につけた。上田萬年が伊勢を訪れた際、講演だけでは飽き足らず、宿所の松阪・鯛屋まで出かけ話を聞き、いわば「松阪の一夜」となった。

神宮皇学館を卒業した後、しばらく神宮司庁に置かれていた『古事類苑』の事務所に勤務したが、明治三十四年、東京帝国大学文科大学選科生となった。この間に国語調査委員会の調査にも参加した。同委員会編

『口語法分布図』は本学附属図書館に蔵されているが、発行当時の現物を蔵する大学は全国的にもそう多くないはずである。また、弘文書院で十

か月間中国人留学生に日本語を教えたが、この時期に魯迅もここで日本語を学んでいる。後年、台北帝国大学で総長を務めることになる安藤にとつて意味のある経験であった。

明治三十七年神宮皇学館教授に就任。「ああ、先生は帰り玉へり。母校に帰り玉へり。」館友会雑誌とその着任は歓迎された。旧制の皇学館では古典を学ぶと同時に和歌を作ることが授業内容の一つの柱となっていた。歌を作るには多くの歌を覚えることがコツであると説いた。皇学館

在勤中の住まいは二見浦にあった。

今年全通百年を迎えたJR参宮線の開通に当たり「二見浦」の読み方を当時の鉄道院から尋ねられ「ふたみがうら」ではなく「ふたみのうら」が正しいとする回答をしたという。古歌に通じた安藤ならではの知識。

昭和二十年国語審議会会長となり、当用漢字表および現代かなづかいを制定した。安藤は上田萬年の流れを汲み、戦前から漢字制限と現代かなづかいを推進する立場にあった。「私を表記するとき必ず「わたくし」とかな書きにしたという。現行憲法を口語体にするという案も安藤と山本有三の提案によるものであったと伝えられる。安藤の国語に対する考えはいかに国民にとって使いやすいかが日本語の維持発展につながるというものであった。

昭和二十七年逝去。『安藤正次著作集』第七巻に伝略がある。

国文学科准教授 齋藤平

シリーズ学びの現場からII

伝統の心と技

本学では平成二十年度より演習科目「伝統の心と技」をカリキュラムに取り入れている。目的は日本の伝統文化に触れ、そこに込められた「心と技」の真意を学ぶこと。実際にどのような授業が行われているのか、シリーズで紹介する。

詩吟

講師 ● 中村立夫先生
雅号 正瀛

漢詩を読み下したものに節をつけ詠う「詩吟」は、漢詩や和歌に込められた作者の思い、自然の情景、時代の出来事、当時の様子などを感じ取り、さまざまな観点から詩吟を味わってもうことだ。



独特の節回しに苦戦しながらも朗々と吟じる（左／中村先生）

漢詩や和歌に用いられる言葉の意味や大切さ、歴史的背景などを解説しながら、実際に吟じ見本を示す。指名された学生は詠い、実技演習を重ねることで詩吟の深遠な世界を感得、会得していく。

「腹に力を入れて」と姿勢の大切さを何度も語りかける。指先まで心を配りながら稽古を重ね、次第に滑らかに帛紗をさばけるようになった学生たちは、背すじがピンと伸び、凛とした空気を漂わせていた。

茶道

講師 ● 浅沼 博先生
茶名 宗博

型を通してでもなしの心を育む

一服のお茶を点て、いただくことを通して、相手への思いやり、感謝する清らかな心を育む茶道。毎回後半に実技を学ぶが、今回の授業では帛紗（びくさ）さばきを学んだ。帛紗とは、客にお茶を点てる亭主が茶器や茶杓を清める方形の布のこと。裏千家の浅沼先生は正座する学生たちに帛紗の正しいさばき方を教えるながら、「肩の力を抜いて」「もっと胸

お仕事拝見

本学と連携協定を結んでいる伊勢市。このコーナーでは「地元愛」を町づくりに活かすスペシャリストである伊勢市役所の方々、これまでの取り組みや伊勢の魅力について語っていただきます。

若い方のパワーが必要

「環境」というと、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？

「環境」には、地球環境、自然環境、生活環境……など幅広い意味があります。環境課では地球温暖化防止対策など地球規模の問題から、隣家の敷地の雑草が伸びてきて困っている」といった身近な相談への対応まで、さまざまな仕事を行っています。



伊勢市役所環境課 坂本進 副参事

私自身、幅広い環境の仕事に対応していくために日々苦悩していますが、職場のスタッフや市民の方々に支えられ過している。

皇學館大学のみなさんにも、毎年「環境ミーティング」で大学生と語る伊勢の環境の中で、大学生の視点から市の環境関連事業への意見をいただくことなどで協力しています。

私が若いころは「環境」について全く意識したこともありませんでしたが、今思えば、若いからこそできることもあったのではないかと感じています。

市では、市民及び事業者の皆さんと協働して、清掃活動や環境イベントなど様々な環境活動を行っておりですが、たくさんの方のご参加・ご協力が必要としています。特に、若い方が必要です。

また、若者が持つ行動力や発想力などを活かして、難しく考えず、自分の身の回りの環境をよくすることを出発点に、積極的に取り組んでいただくとともに、市の施策への「ご参加・ご協力」をお願いいたします。



姿勢を正し、心を鎮めて帛紗をさばく学生たち（左奥／浅沼先生）

第四回 皇學館大学特別講座（立志塾）

日本人の絆の深さに学ぶ

演題 ● 「東日本大震災と日本人の絆」

講師 ● 田尾憲男 先生

本学客員教授（鉄道情報システム株式会社常勤監査役、憲法・皇室法研究家）

七月三十日、本学にて、第四回皇學館大学特別講座（立志塾）が開催された。

また「天皇陛下のお言葉」に示された大御心を紹介いただき、深まる日本人の絆、あるべき生き方についてお話をいただいた。

田尾先生はまず二万数千人もの尊い命を奪った東日本大震災と原発事故に触れ、国難を通してみえてきた現代日本の重大



田尾先生の語る日本人論に聞き入る聴講者

問題に訴えた。

「天皇陛下のお言葉」に示された大御心を紹介いただき、深まる日本人の絆、あるべき生き方についてお話をいただいた。

続いて会場を記念館に移して座談会を開催。地域社会・福祉計画・伝統文化の分野から、現代日本学が果たすべき役割について、参加した学生や社会人の方々からも発言があり、活発な議論がなされた。

受講者からは、「クライシス（危機）はターニングポイント」という話をとても納得した。これからの日本がこの危機をいかに転換点とするかが課題だと思つた。「自衛隊や在日アメリカ軍の働きによって多くの命が救われたように、日本人と外国人が互いに助け合える世界に」「被災者が最も大切にされたのが家族の写真と位牌であったという事実」、家族の絆や尊さを知らされた」「天皇陛下がどれだけ日本国民のことを思っているのか」などの感想が寄せられた。

私の学生時代

過去を学ぶ基本姿勢を培う

現代日本社会学部教授 新 田 均

早稲田大学卒業



「歴史は、現在と過去との対話である」とはイギリス人の歴史家E・H・カーの言葉だが、現在の問題に対処するために、過去を学ぶという基本姿勢や問題意識は早稲田での四年間で培われたような気がする。

「歴史は、現在と過去との対話である」とはイギリス人の歴史家E・H・カーの言葉だが、現在の問題に対処するために、過去を学ぶという基本姿勢や問題意識は早稲田での四年間で培われたような気がする。

当時、「昭和」の後には元号がなくなってしまうかもしれないというところで国会では「元号法制化」が問題となっていた。それで先輩に誘われて国会を傍聴したり、国会議員を招いて講演会を開いたりした。

その説明がすっかり腑に落ちたというわけではなかったが、何か魅力を感じて入部した。そこから、日本の政治や歴史への興味が深まっていた。

「歴史は、現在と過去との対話である」とはイギリス人の歴史家E・H・カーの言葉だが、現在の問題に対処するために、過去を学ぶという基本姿勢や問題意識は早稲田での四年間で培われたような気がする。

平成23年度 研 究 旅 行 (文学部・大学院)			8・9月実施分
学科・専攻	引率教員(敬称略)	行き先	期間
文学部	神 道	井後政晏・松本 丘	東海・北陸方面
		河野 訓	※ 1 韓国(釜山・慶州・済州島)
		白山芳太郎	宮古島
	国 文	大島信生	鳥取・島根
		高倉一紀	石川・滋賀
		半田美永	※ 2 台湾(台北・台南・高雄)
		深津睦夫・三品理絵	中国・四国方面
		上小倉一志・松下道信	中国(上海・蘇州)
		齋藤 平・中川照将	福井・京都方面
		岡野裕行	福岡・山口方面
	国 史	上野秀治	加賀・越前
		岡田 登	山陰地方(島根)
		岡野友彦	広島・四国・九州方面
		田浦雅徳・谷口裕信	※ 2 台湾(台北・台南・高雄)
		松浦光修	鹿児島・下関・萩
	コミュニ ケーション	多田實道	長野・栃木・東京・神奈川・静岡
		上久保達夫・山田やす子	韓国(釜山・慶州・ソウル)
		豊住 誠・ジョン ダイクス	シンガポール
		外山秀一	※ 1 韓国(釜山・慶州・済州島)
		増井節郎	山梨・東京・横浜
		森 真一・前田至剛	グアム
大学院	神道学	白山芳太郎	出雲方面
	国史学	荊木美行	九州(博多方面)

注：※ 1、※ 2については合同で実施

大学院・神道学専攻

神社について学べた
有意義な時間

博士前期課程 2 年 篠瀬 聖

私ども大学院神道学専攻の研究旅行は隔年実施 1 ～ 2 年合同であり、本年は 8 月18日から20日まで、出雲方面を目的地として行われた。白山教授の引率の下、鳥根県内の各社、各祭祀遺跡をめぐった。本研究旅行では、特に鳥根県神社庁主事で万九千神社禰宜である錦田剛志氏にその大半を現地で説明していただいた。

1 日目は熊野大社、八雲立つ風土記の丘資料館、八重垣神社、神魂神社、佐太神社の順に廻った。各神社宮司様自ら各神社の祭祀についてご説明くださって、貴重な経験であった。

2 日目は須賀神社、加茂岩倉遺跡、神原神社古墳、荒神谷遺跡および同遺跡博物館、西谷墳墓群、出雲弥生の森博物館、須佐神社、万九千神社を廻った。万九千神社では正式参拝と神楽奉納をさせていただいた。2 日目で特に印象が深かったのは、万九千神社での夜神楽奉納であった。出雲神話の大蛇



本殿大屋根奉拝を終えて(出雲大社)

退治を表現したこの神楽は特に心を引き寄せられた。また、荒神谷遺跡博物館では考古資料や祭祀資料をどの様に保存していくのかなど、考えさせられることが多かった。

3 日目は日御碕神社、日ノ岬灯台、出雲大社、鳥根県立古代出雲歴史資料館を廻った。出雲大社では正式参拝をさせていただき、同社の60年に一度の大修造のなか、本殿大屋根の葺き替え途上での特別奉拝をさせていただいた。目の前で古くから受け継がれてきた匠の技を見ることができ、よい勉強になった。

今回の旅行では何と言っても出雲神話と出雲大社について深く学ぶことが出来たのが有意義であった。最後にお世話になった白山教授と錦田氏にこの場を借りて感謝申し上げたい。

荊木美行 引率教員からの一言メッセージ

ゼミ旅行は学ぶ旅であると同時に、仲間との絆を深める絶好の機会でもある。学生諸君には今回ともに旅した友人をいつまでも大事にしてほしいと思う気持ちが切である。あえて欲をいえば、事前学習をもう少し深めておくと、もっと有意義なものになるのではないかな。本やネットで予備知識を仕入れておくと、旅先での関心がもっと増すはず。

大学院・国史学専攻

「伝えていくこと」の
重要性を知る

博士前期課程 2 年 多田 圭介

8 月29日から 8 月31日まで、私たちは福岡への研究旅行に出かけた。大学院の研究旅行は、専攻する時代別ではないので、古代から近代までそれぞれを専攻する計11名での旅行となった。普段接することのない遺跡や資料に触れることができ、大変有意義な旅行となった。引率の荊木美行先生が設定された「見聞を深める」という研究旅行の目的は、十分に達成されたのではないだろうか。その研究旅行で私が最も感じたことは、「伝えていくこと」の重要性である。

香椎宮、太宰府天満宮、水天宮では、それぞれ正式参拝の後、神職さんによる貴重なお話を聞くことができた。その神社の由緒・祭神の説明だけでなく、蔵している資料の解説や、神社近くの史跡にも案内して頂き、大変勉強になった。その他、大刀洗平和記念館では職員の方に、今津・元寇防塁跡では地域の方に懇切丁寧な説明を頂き、一層理解を深めることができた。



大宰府政庁跡を散策



久留米・水天宮にて

振り返って思い出されるのが、太宰府天満宮でお話を下さった神職さんが、私たちに向かって、研究するだけでなく、その成果を伝えていくことの重要性を強調しておられたことである。大刀洗平和記念館の職員の方も、戦争の真実、大刀洗で起きた悲劇を後世に伝えていくことの重要性を説いておられた。また、説明下さったの方、表情が生き生きとしておられたのがとても印象に残っている。私事ながら、歴史のテレビ番組に出演している専門家の、生き生きとした表情で解説している姿に魅了され、「こんな歴史の教員になりたい!」と高校生のときに思ったことを思い出した。

私たちは、より専門的知識を深めようと、学部での 4 年に上乗せして大学院で学んでいる。しかし、専門的知識とは、一方で独善的になってしまうことがあり、何の為に研究しているのかを見失ってしまうことがある。今回の研究旅行で、その答えの一つが見つかったのではないだろうか。旅行での経験を踏まえ、より研究に励み、その結果を何らかの形で多くの人に伝えていきたいと思う。

クローズアップゼミ
研究室探訪13



神道学科 助教
木村徳宏ゼミ

今年度から学部と専攻科のゼミを受け持っています。私の研究テーマは、中世から近世の「神道史」と、同時代の神道家・国学者の「思想」です。中世以降の歴史の中で、国学が興隆してゆく道程をじっくり検証することにより、その思想的な展開を捉えてみたいと考えています。

学部のゼミでは、近世前期の外宮祠官である出口延佳が著した『太神宮神道或問』を、専攻科のゼミでは、著名な国学者である本居宣長が著した『伊勢二宮さき竹の辨』をテキストに用い、精読しています。何れのゼミも学生ごとに分担を決め、興味

を持った部分、あるいは疑問に思った部分を中心に、調べてきた内容を発表してもらっています。発表に当たっては、担当部分を正しく解釈させることに力点を置いています。事前に問題となる部分を指摘し、糸口

自ら調べ、知る楽しさ

となるヒントを伝えますが、その際に注意するのは、断片的に調べるのではなく、深く掘り下げて調べてことです。テキストで著者が主張していること、あるいは批判していること、その理由・背景は何なのか。

現代の我々なら常識と思えることも、当時では大きな議論となっている内容も多く含まれています。

また、歴史を扱う上で注意しなければならないのは、①現代人の尺度で判断しないこと、②時代背景および基底となっている考え方を押さえておくこと、が重要であると思います。これらを踏まえた上で研究を進めれば、通観的に理解を深めることが可能でしょう。我々の祖先が培い、今も息づいている神道の歴史を「自ら調べ、知る楽しさ」を味わいながら学んでいってもらいたいと思います。

いざ、学びの旅へ

ゼミ研究旅行報告



8月から9月にかけて、文学部の研究旅行が実施された。研究旅行は授業と同等の教育的意義があり、普段行けないような場所を訪れたり現場の声を直に拝聴したりと、日頃の研究の成果を肌で実感できるまたとない機会だ。行程は学部・大学院をあわせ全21コース。どの旅も出会いあり、学びあり、感動ありと学生は一様に満喫したようだ。今回はその感想の一部を紹介する。

神道学科

現場の緊張感を体感

松本ゼミ3年 狩野 圭祐

9月4日から7日までの4日間、中部・北陸方面へ井後ゼミ・松本ゼミの合同研究旅行に行った。

4日間で熱田神宮・諏訪大社本宮・穂高神社・仁科神明宮・尾山神社・白山比咩神社・多賀大社の7社を正式参拝し、各地の史跡や博物館、町並みを見学。本や資料でしか知らないお宮について、実際にご奉仕されている現任の神職の方からお話を頂き、より理解を深める事ができた。また、実際に歩き眺める事により、写真や地図ではわからない地域の特徴や環境を肌で感じる事ができた。

特に印象深かったのは、長野県の穂高神社と滋賀県の大賀大社である。穂高神社では神社の由来をはじめ古代安曇野一族や開拓神話、それを起源にも



長野・穂高神社にて

つ御船祭の話を伺い、地域の過去と今を繋げ、未来に伝えていくという神社の役割の大切さを学んだ。多賀大社では崇敬者増大の流れとそれによって支えられてきた歴史、そして私どもが神社界に進むにあたり、必ず直面するであろう問題点や状況についての話を伺った。まさに現場ならではの緊張感と視点、そして私どもに対する大きな期待を感じる事ができた。

この想いを無駄にする事無く、残りの大学生活においては勉学を、また奉職や就職後はお宮や社会がより良くなるよう、御奉仕に励み勤めたい。

国史学科

先生や仲間との絆を深める

松浦ゼミ3年 大友 淳子

幕末思想史の研究を主に行っている私たち松浦ゼミは、幕末の時代を動かした2つの雄藩、薩摩(鹿児島)と長州(下関・萩)を、3泊4日でまわった。その間に知覧の特攻平和記念館や南洲神社、東行庵や松陰神社、また野山獄跡や高杉晋作邸などを見学した。

鹿児島では雪のように降り注ぐ桜島からの灰に歓迎(?)され、また松陰神社では松下村塾の畳に上げていただいたりと、感動的な経験をたくさんした。

そして、史跡を廻るだけではなく、今までなかなか話すことのなかった友



萩・松陰神社での正式参拝

人達とも語り合う機会を得て、先生や仲間との絆も深めることができた。

帰りの新幹線では皆で旅行を思い出しつつ、課題として出された「ゼミ旅行の感想の和歌」をつくって旅を締めくくった。あっという間の4日間だったが、内容が濃く、貴重なものをたくさん得られた4日間だった。

コミュニケーション学科

文化の違いを肌で感じる

豊住ゼミ3年 松井 美穂

私たち豊住・ダイクスゼミは、合計7名でシンガポールへ5日間行った。短い期間だったが、日本との様々な文化の違いを肌で感じる事ができた。

まず、日本と比べて車の数が少ないことに気がついた。シンガポールでの交通渋滞は社会問題になるほど深刻で、それを解消するために国が車の台数を制限するというほど。そのため、タクシー・バス・地下鉄などの公共交通機関が日本の半値以下で利用でき、非常に充実していた。

次に、言語面だ。シンガポールには複数の公用語がある。その中で、英語は職業に就くうえで大変重要になっている。観光ビジネスが主流になってい



シンガポール・マライオンの前にて記念撮影

国文学科

中国で感じた バリアフリーのあり方

上小倉ゼミ3年 平石 大介

上小倉ゼミと松下ゼミの旅先は、中国の上海と蘇州だった。私は身体に障害があり、車椅子無しでは移動が困難であるため、今回の旅行に対しては不安な気持ちでいっぱいだった。

中国につくと上海の美しい建造物が並び、目を引いた。しかし日本と比べて段差が多く、周りのサポートなしでは殆どの建造物に入れない状態だった。

そのなかで印象に残ったことは、蘇州の寒山寺にある鐘樓の鐘を鳴らしたことである。この鐘はお金を払うと3回つくことができたのだが、鐘は2階部分にあり、車椅子ユーザーの私は鐘をつくことは諦めていた。しかし先生方や友人達が2階まで担いでくれるなどのサポートがあり、私は鐘をつくこ



中国・蘇州寒山寺にて

とができた。普通の人ならたかが鐘で、と思うかもしれないが私は言葉にならないほど嬉しかったのだ。なぜなら、できないと諦めていたことが周りのサポートによって目的に到達することができたのだから。

今回の旅行を通して思ったことは、ただ道がフラットで難なく進めることだけがバリアフリーなのではなく、ある意味、真のバリアフリーというのは人の思いやりではないだろうかと考えさせられた有意義な旅だったということである。今回の旅でサポートしてくれた方々には感謝の気持ちでいっぱいだ。

「ビジネス交流会」を初開催 同窓会総会

八月七日に皇學館高校において平成二十三年度同窓会総会が開かれた。十三時三十分から始まった会では第一部として予算についての決算を報告。収支予算審議では昨年度に引き続き創立五十周年記念行事に向けての準備と、在校生支援に重点を置いた内容となることが議決された。

第二部では初めての試みである「ビジネス交流会」を開催。本校の同窓生は一万六千人を超え、様々な方面で活躍している。その同窓生が約二十五店の出展ブースにおいて自慢の商品を披露する貴重な機会となった。食品関連では伊勢でお馴染みのコロッケや肉まん・かまぼこが所狭しと並び、またお寿司やサザエのつば焼きといった高級感漂う品、伊勢の材料にこだわった



多彩なブースが並んだ会場

唐揚げやチキンカレー、鰻巻き寿司などが登場。ケーキや抹茶アイスといったスイーツ、コーヒー、日本酒なども振舞われた。さらに、フワフワアレンジメントや絵画などのアート作品が出席者の目を惹きつけ、なかには、リフォーム相談など実用的なブースを設ける参加者も。紹介しきれないほど多種多様のブースが並び、異業種同士での交流も深まった。

参加できなかった方も来年度はぜひ同窓会に参加を。同窓生二つの新たな出会いが、新しい扉をあけるきっかけになるかもしれません。

教諭 中西由佳

二年一組が両種目制覇 クラスマッチ開催



応援の音が響くなか、白熱した闘いが続く

例年、天候に恵まれるクラスマッチだが、七月十四日・十五日の二日間には雨が降り続いた。競技はソフトボールとバレーボール。ソフトボールはグラウンドで、バレーボールは体育館で行われ、暑さに負けず、熱戦が繰り広げられた。

クラスマッチ一回目、ソフトボールでは三年一組と二年一組が、バレーボールでは三年四組と二年一組が次の日の決勝戦へ駒を進めた。全クラスが全力で挑んだ二日目。ソフトボール、バレーボ



ラリーが続き、盛り上がった試合

ールともに二年一組が優勝。その頑張りにも惜しみない拍手を送った。敗者復活戦ではソフトボールが二年四組、バレーボールでは三年三組が勝ち、三位となった。どのチームも最後まで粘り強く闘い、試合が終わった後の爽やかな表情が印象的な大会となった。

二年五組 総務委員長 矢野翔大

基礎学力が明暗分ける 進路説明会の報告

さる六月四日、二年生の保護者の皆様を対象に進路説明会を実施した。ご多忙中にもかかわらず約二百名の方々に参加していただき、改めて感謝する次第である。

説明会の第一部では本校の進路指導部より「本校の進路指導についての取り組み」や「昨年度の進路状況」、「二年生の学習状況」について説明をした。その後、ベネッセより講師を招き、「受験生の保護者として」というテーマで講演会を実施した。

この状況下で可否を分けるのは、やはり基礎学力が定着しているか否かに尽きる。基礎学力は一朝一夕で身につくものではなく、毎日の学習習慣が最も重要だ。進路指導部ではこのポイントを押さえつつ指導にあたる所存である。生徒諸君もこのことを念頭にコツコツと努力を重ね、合格を手にしてほしい。

進路指導部

皇中 NEWS

お知らせ

第3回 学校説明会

9月4日の第2回学校説明会が悪天候となり、お越し頂けなかった方もいらっしゃるため、この度「第3回学校説明会」を実施することに致しました。是非、ご参加下さい。

開催日●10月23日(日)

第1部 9:30~	学校・入試説明会 (第2回学校説明会と同じ内容)
第2部 10:30~	入試対策学習会 (国語・算数 各45分)

対象●入学を希望する小学生・保護者
(ただし、入試対策学習会は小学6年生対象)

【申し込み不要】※第2部だけの参加も可能

第32回 皇中祭

2日間とも入学を希望する小学生・保護者の皆様を対象に一般公開も行っています。是非お越し下さい。

開催日●11月5日(土)・6日(日)

5(土)	10:50~ 合唱コンクール・合唱同好会発表 (大学記念講堂)
	14:30~ 高校吹奏楽部演奏 (中学校第3体育館)
6(日)	10:00~ クラス展示・保護者会バザー・軽食販売 など(中学校校舎)
	14:00~ マジックショー



集合写真

全体を通して、研修の目的である「本校生としての自覚・誇りを育む」「協力し助け合う心を養い、深い交流の機会とする」という二つのことをきちんと守れたと思う。先生方から注意を受けた事も少々あったが、それらも含めてとても勉強になった。

活動班や部屋班の人たちはもちろん、他の班の人たちとも仲が深まった。協力し合い、助け合い、これから六年間一緒に過ごす仲間としてとても良い経験だったと思うし、相手を思いやる気持ちも前以上に生まれた。バスの中も楽しく、行き帰りの道ではきれいな熊野の自然も感じることができた。フィールドワークに続く二つ目の思い出として心に残しておきたいと思う。

相手を思いやる気持ちを育む

前田 珠野

人に迷惑をかけない行動を

佐々木 星

いつも以上に長い時間をみんなと一緒に過ごせて楽しかった。関所ハイイクではみんなが協力できたと思う。布団のたたみ方やトイレの使い方などについてはしっかりとできていない点があった。これらは普段の生活でも大切なことなので、この宿泊研修を機にし

しっかりと反省し、良いマナーを今まで以上に心がけたい。全てが団体行動なので一人が自分勝手なことをするとそれだけで時間が遅れて迷惑になるということがよく分かった。次は二年生のスキー研修で挽回できるようにしたい。



関所ハイキングの頂上ゴール地点!!

仲間の大切さを学ぶ

平成二十三年 度 宿 泊 研 修

八月二日から一泊の日程で一年生が宿泊研修を実施した。場所は「熊野少年自然の家」。心配されていた天候にも恵まれ、夕食には野外炊事を行うことができた。生徒はたくさん活動を通して勉強だけでなく、仲間の大切さなど集団生活における様々なことを学んだようだ。二日間全体を通しての生徒の感想を次に紹介する。

当時、在学していた名張学舎にはまだ教職課程がなかったため、卒業後は伊勢学舎で新たなスタートを切りました。その後、伊勢と名張を行き来しながら教員免許を取得し、現在にいたりますが、その間たくさんの先生方から多くの励ましや助言をいただきました。

いま学生時代を振り返り、まず思つことは、先生方のきめ細やかで親切なご指導の数々です。まだ

さい。物思いに耽つてみるのもよいでしょう。案外そういう所にこそ探していた未来がころがっているのかもしれない。

皇學館大学には、我が子のように接してくださる素晴らしい先生方がたくさんいます。安心して様々なことに挑戦し、よい学びをたくさんしてください。いつか後輩とともに働ける日を楽しみにしています。

イベント情報(10~11月)

10月

- 1+** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教「住吉大社」◆河野訓 文学部教授
- 5** 全国大学史資料協議会 431教室
皇學館の創立—明治15年と学校史—
◆渡辺寛 皇學館大学名誉教授・館史編集室長
- 6** 皇學館大学知事講演会 231教室
「日本一、幸福が実感できる三重」を目指して
◆三重県知事 鈴木英敬 氏
- 8+** 月例文化講座 431教室
子ども観の変遷 ◆野々垣明子 教育学部講師
皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「五穀の起源」◆白山芳太郎 文学部教授
- 13** 現代日本塾 621教室
世界の宗教と民俗の共生について(仮題)
◆公益財団法人国立京都総合開発センター長 天江喜八郎 氏
- 22+** 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室
日本の祭りⅧ「秩父神社の由緒」
◆秩父神社権柄宜 園田建 氏
皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「諸国の一宮・総社の祭り」
◆井後政晏 文学部教授
- 29+** 第2回 現代日本学会総会記念講演 622教室
医療・福祉施設建設と今日の日本の状況
—とくに東日本大震災後の状況変化について—(仮題)
◆日揮(株) 医療福祉グループ プロジェクトマネージャー 越知伸成 氏

11月

- 4** 現代日本塾 231教室
家庭養護促進協会の活動からみえる日本の子どもたち(仮題) ◆家庭養護促進協会 岩崎美枝子 氏
- 12+** 月例文化講座 431教室
版画のはなし：ウォーターレスリトグラフを中心に
◆加藤茂外次 教育学部准教授
皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「八雲立つ出雲」
◆白山芳太郎 文学部教授
- 17** 皇學館大学史学会講演会 231教室
俊乗坊重源の参宮 ◆多田實道 文学部講師
- 19+** 古文書講座 711教室
近世文書を読む ◆上野秀治 文学部教授
- 22** 文化継承実習「礼法」Ⅱ 祭式教室
元服式 ◆弓馬術礼法小笠原教場・小笠原流礼法三十一、
本学特別招聘教授 小笠原清忠 氏
- 26+** 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室
日本の祭りⅧ「厳島神社の年中行事」
◆厳島神社権柄宜 岡田敬士 氏
皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教「奈良の諸寺院(東大寺と興福寺)」
◆河野訓 文学部教授

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認いただきますようお願い致します。
- 共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野 ☎0120-106-718)へお願い致します。
- 神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは ☎0596-22-6471)へお願い致します。
- その他お問い合わせは、皇學館大学企画部 ☎0596-22-6496)へお願い致します。

◆この度の台風により被害を受けた皇學館大学阿倍野校舎は、被害を受けた校舎におかれましては、誠に申し訳ございません。お見舞い申し上げます。誠に申し訳ございません。お見舞い申し上げます。誠に申し訳ございません。お見舞い申し上げます。

【企画部】

社会福祉学科公演



人形劇活動メンバー募集!
学部・学科を問わず、広く募集します。興味のある学生は、7号館5階 森岡研究室まで。 E-mail morioka@kogakkan-u.ac.jp

や照明など、学生たちは様々な課題に工夫と議論を重ねて準備しました。学生にとつて貴重な経験となったのは公演当日、五十鈴川幼稚園や天理教互助園、精華学園の子どもたちとその関係の皆様が来場くださったこと。着物の制作などに時間がかり、合わせや演出が十分でなかったのは残念でしたが、アドリブで会場の子どもの心を引き付けるなど、学生の普段と違う一面に気付かされることもありました。

多くの学生が人に見てもらうことの喜び、達成感を得たと書いています。「緊張は、集中力を生み人を成長させる」と思えます。人形劇は、保育者に必要な協調性・責任感・

人形劇を終えて

でも、自分達の努力の結果を披露することで、自分自身が成長出来たと実感することができました。今後またこのような機会があれば、全員で取り組みたいと思います。

楽しさを味わうことができた。配役が女の子だったので衣装である着物を作りましたが、難しく周りの友達に協力してもらったり家に持ち帰って作業をしたりと苦労した部分もありました。でも、メンバー一人ひとりが個性的な人形を作る姿が見られたりと、毎回楽しみの多い授業でした。公演では緊張して人形の表情や動きを表すことがとても難しかったです。でも、子どもたちの笑い声が聞こえた時は皆で人形劇ができて良かったと感じ、また実施したいと思いました。

皇大神宮に架けられている宇治橋は、五十鈴川(御裳瀧河)を境に皇大神宮(内宮)神域の内外をつなぐ神橋です。これは第六十二回神宮式年遷宮に際し、新橋が造替されるに伴い解体された、宇治橋西詰北側第一雄柱周辺の古材です。第一雄柱には花型金具(擬宝珠)が被せられており、その下(内側)には、橋の安全を祈願した万度麻(守札)が納められるよう工夫がされています。五十鈴川に宇治橋が架けられたのは永享六年(一四三四)からとわれ、架橋と式年遷宮との間に直接の関係はありません。遷御の四年前に橋が架けられるようになるのは、昭和二十八年(一九五三)の第五十九回式年遷宮からのことです。

皇大神宮宇治橋古材

こうたいじんぐう うじばし こざい



皇大神宮に架けられている宇治橋は、五十鈴川(御裳瀧河)を境に皇大神宮(内宮)神域の内外をつなぐ神橋です。これは第六十二回神宮式年遷宮に際し、新橋が造替されるに伴い解体された、宇治橋西詰北側第一雄柱周辺の古材です。第一雄柱には花型金具(擬宝珠)が被せられており、その下(内側)には、橋の安全を祈願した万度麻(守札)が納められるよう工夫がされています。五十鈴川に宇治橋が架けられたのは永享六年(一四三四)からとわれ、架橋と式年遷宮との間に直接の関係はありません。遷御の四年前に橋が架けられるようになるのは、昭和二十八年(一九五三)の第五十九回式年遷宮からのことです。

が納められるよう工夫がされています。五十鈴川に宇治橋が架けられたのは永享六年(一四三四)からとわれ、架橋と式年遷宮との間に直接の関係はありません。遷御の四年前に橋が架けられるようになるのは、昭和二十八年(一九五三)の第五十九回式年遷宮からのことです。

佐川記念神道博物館教授・学芸員 岡田芳幸

建替えにより取り壊される日本館(現1号館)の公開

昭和37年本学再興時の最初の建物として建設された日本館(現1号館)が、耐震上の問題もあり、新研究棟の完成をもって、12月に取り壊されることとなりました。

つきましては、再興後の卒業生には大変思い深い建物でありますので、旧本館を下記の通り開放して「お別れ」の機会とさせていただきますことになりました。多数の方のお越しをお待ちしております。

日時●10月23日(日) 10:00~16:00

※この時間中、建物を開放しておりますので、ご自由にお入りください。在学当時を思い出していただき、各々でお別れいただきますようお願いいたします。

【問い合わせ先】皇學館大学総務部 総務担当
TEL0596-22-6308 (8:30~16:30)

教育学会主催 さよなら1号館 記念懇談会

日時●10月23日(日) 11:00~17:00 場所●1号館・6号館

内容●懐かしい先生方や卒業生に1号館での思い出を語っていただきます。

11:00~13:00 1号館自由見学
13:00~15:30 1号館思い出トーク(宗林先生・森下先生・西山先生・卒業生代表)
15:30~17:00 懇親会

【問い合わせ先】皇學館大学教育学会 TEL・FAX0596-22-6458 (8:30~16:30)

第12回 高校生英語スピーチコンテスト

日時●10月23日(日) 9:50~ 場所●431教室

文学部コミュニケーション学科では、高校生のみなさんを対象とした英語スピーチコンテストを開催します。

倉陵祭

日時●10月28日(金)~30日(日)

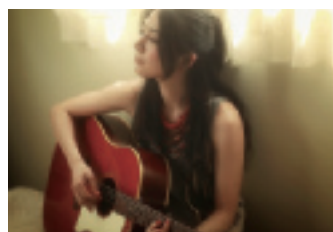
樽神輿・展示・模擬店など楽しいイベントが満載です。

●10月28日(金)

アーティストライブ 植村花菜

(入場無料・要整理券)

昨年度「トイレの神様」でNHK紅白歌合戦に初出場。



●10月30日(日) 13:00~
講演会 (入場無料・先着順)
藤原正彦氏 演題「日本人の誇り」
お茶の水女子大学名誉教授・本学客員教授

第4回 オープンキャンパス2011

日時●10月30日(日) 11:00~16:00

大学祭と同時開催。推薦・一般入試の最新情報や施設見学のほかに講演会や模擬店体験など大学祭を楽しむイベントが盛りだくさん。

イベント情報

皇學館大学特別講座 日本人の「主体」性

講師●菅野 覚明氏

東京大学大学院人文社会系研究科教授
本学客員教授



学外日程

日時●11月21日(月) 18:30~20:00

場所●四日市商工会議所 1階会議所ホール

【参加・申込方法】事前申込み・先着順 192名

インターネット(本学ホームページ)及びFAX(氏名・住所・連絡先・勤務先を明記)においてお申し込みください。

学内日程

日時●11月22日(火) 13:00~14:30

場所●224教室

【参加・申込方法】当日先着順 50名

皇學館大学ビジネスプランコンテスト 皇-1GP

応募締切●11月24日(木) 13:00必着

若者(高校生・大学生)による地域社会を元気付けるビジネスプランを大募集! 詳細は本学公式HPを参照してください。